

AIを用いたメールの自動仕分け

中村 陽一郎

開発における問題点

多様な内容が混在する大量メールを手で高頻度に仕分けるには時間がかかる。
また、ルールベースでは新規パターンへの適応に弱く柔軟性を欠き、個人の好みを反映するためには詳細な設定が必要となり、メンテナンス負荷も高まる。社外秘を含むため社内規則とコンプライアンス遵守を徹底する必要がある。

手法・ツールの適用による解決

AIモデルを用いてメール本文や件名を解析し、「業務連絡」「広告」などに自動分類することで仕分けの効率と精度を向上させた。分類基準には個人差があるため、利用者が誤分類を修正し、その結果を再学習に反映させるヒューマンインザループを導入することで、精度改善と個人の好みに応じた柔軟な運用を可能にした。

実験概要

8/2-8/27に受信した380通のメールのうち、ルールベースで分類出来なかった269通(70%)のメールに対して下記手順で比較実験を行った

Step①: 269通のメールに対して

主観分析し、該当フォルダを選定する

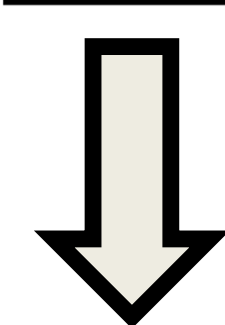
Step②: 269通のメールをAIで分類する

Step③: Step①とStep②の結果の比較を行う

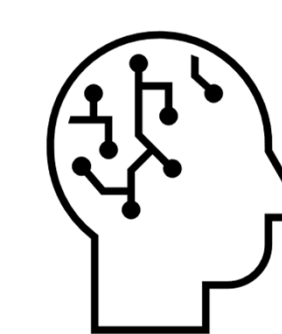
作成システム



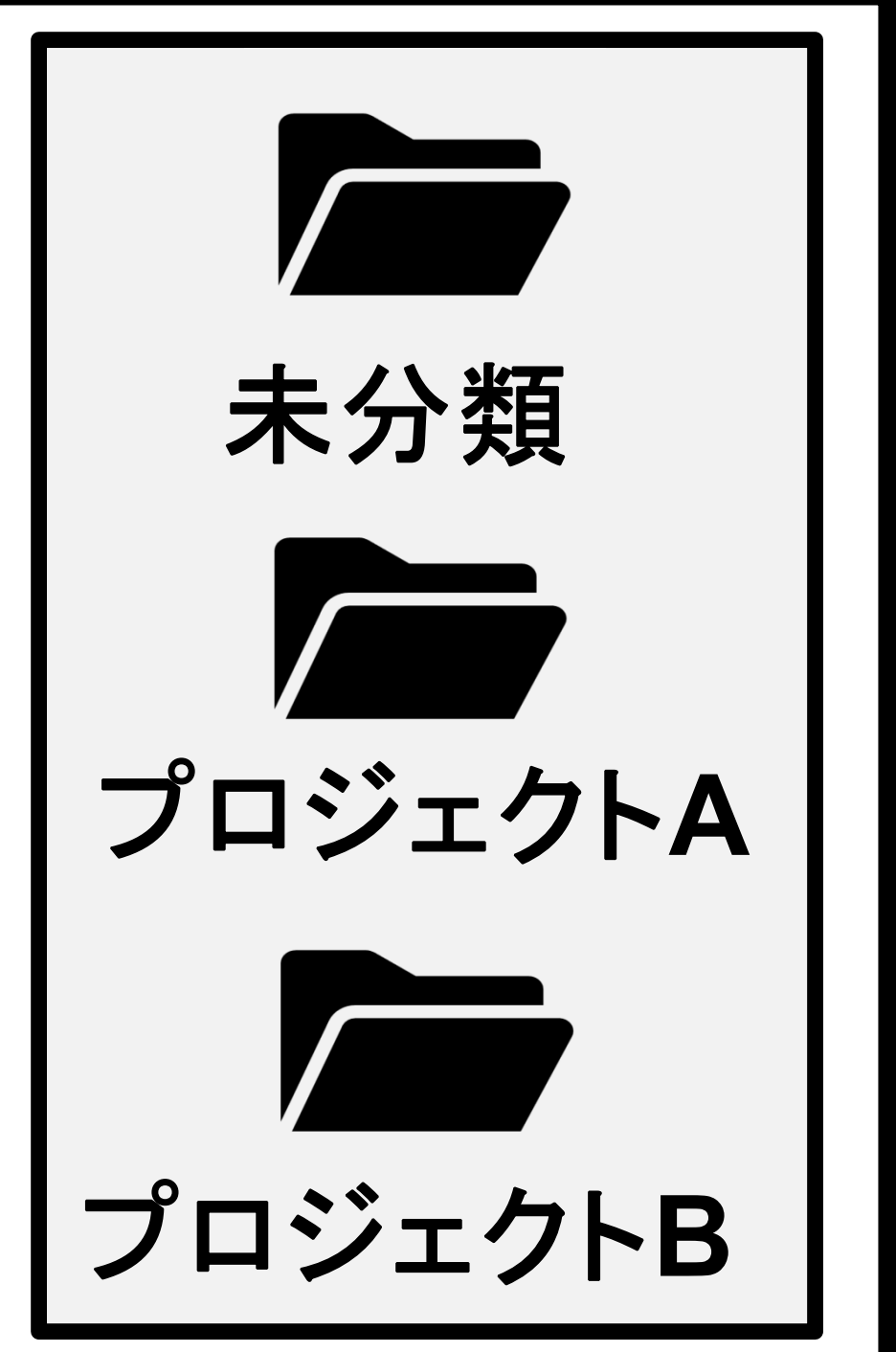
ルールベース分類後のメールを対象



データの受渡



AIで分類



使用AI: Claude Sonnet 4 モデル: us.anthropic.claude-sonnet-4-20250514-v1

結果概要

8/2-8/27に受信した未分類メール
全メール数: 380通
未分類メール数: 269通(70%)

単発案件など分類が
困難なメール
該当メール: 62通(※)

新規プロジェクトによって
分類が困難なメール
該当メール: 19通(※)

分類不要またはルールベースで対応可能

その他
(要因不明)

分類不要

部課内連絡/団体B/...

プロジェクトA/B/...

正解フォルダに
分類されたメール
該当メール: 93通

所属協会から毎日届く
ニュース系メール
該当メール: 44通

フォルダ分けの好みによって
不一致のメール
該当メール: 42通(※)

ヒューマンインザループを組込み、
個人の好みを反映させる必要がある

正解フォルダ

ルールベース
で対応可能

団体・協会A

研修/勉強会/...

個人の好みがあるため、
ルールベースで対応困難

※複数の要因に関係するメール
があるため、重複メール有り